法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 同窓会会報

# 法土会報

第24号 2023年3月1日

発行所：法政大学デザイン工学部
都市環境デザイン工学科　同窓会
〒162-0843　東京都新宿区市谷田町2-33
TEL・FAX　(03) 5228 1406
発行人　宮　下　清　栄
編集人　会報編集委員会

## 会長メッセージ

都市環境デザイン工学科同窓会（法土会）会長　**宮　下　清　栄**（1980年院修了）

コロナによるパンデミックから３年も経過しましたが未だに新たなウイルスに変異し収束の兆しが一向に見えない毎日ですが、リモートと自粛からそれぞれがウィズコロナの生活を模索していることと存じます。

今年の箱根駅伝では特に注目されるような選手がいなかったようですが、全ての選手が実力を発揮し襷を見事につなぎシード権を獲得した姿は安心して応援することができました。ドラマになるような姿も注目が集まり観戦しているものとしては楽しいですが、着実に実力がついて第100回（本選）のシード権を獲得したことは同窓生として大いに期待しています。

法土会も皆で少しずつ協力して襷を繋げていきましょう！

コロナ禍で何も良い事がないのですが、リモート形式での実施が非常に容易になりに、距離抵抗がなくなったことは地方の同窓生にも参加機会が保証され、有益な手法であることが改めて認識され、同窓会活動も更に推進できるものと考えております。これからの同窓会活動はリアルとリモートを併用したハイブリット方式での実施を基本としていきたいと思います。

今年度の主な活動としては10月にキャリアデザインセミナー、11月に社会工学セミナーを実施しました。キャリアデザインセミナーでは一昨年以上の同窓生に参加いただき大変盛況で、在校生にも満足してもらえる会になりました。

社会工学セミナーはコロナ禍で中止をしておりましたが３年ぶりにハイブリット方式で実施しました。学生の参加者も多く会場はほぼ満員となり有意義な講演をお聞きして充実した時間を過ごすことができました。ただ、まだPR不足からリモートの参加者は10名程度であり、今後より充実した情報発信に努める必要を感じました。同窓生への連絡手段としてはe-mailを基本としており、ホームページやfacebookも活用しておりますが是非e-mailの登録をお願いします。お近くにまだ登録されていない方がおりましたら促して頂きますようお願いします。

ところで、「デジャブ（既視感）」という言葉をご存知ですか。初めて経験することや初めて来た場所なのに、なぜか既に知っている感じがすることだそうです。では、デジャブを逆にした「ブジャデ」はアメリカのコメディアン、ジョージ・カーリン氏による造語ですが、良く知り見慣れた物事の中に、新しい気づきや新しい視点を得ることを指しているそうです。課題の本質は何か。これを発見する力を養うことが色んな場面で求められています。同窓会活動も課題山積です。是非皆さんのお知恵をお借りして本質を探り、解決を図っていきたいと思いますのでご支援をよろしくお願いします。

## 都市環境デザイン工学科　教室からの報告

都市環境デザイン工学科　学科主任　教授　**山　本　佳　士**

教室からの近況報告として、入試・教員・施設・就職の状況についてご報告させていただきます。今年度の新入生は学部が76名、大学院が24名で、昨年と比較して人数はやや少なくなりました。大学全体としては志願者数が関東の私立大で最多となり好調な状況です。

専任教員に関しては、昨年度末に渡邉講師が退職されました。施設の面では、文部科学省の「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」の公募に対して、今井教授が中心となって本学から申請した「デジタルツインを用いた都市調査・解析に係わるデータサイエンティスト育成事業」が採択され、教育機材の拡充と新たな科目の整備が行われています。この他にも本学科のカリキュラムについては、新しい時代への対応も含めてさらに充実させるために教室内で継続して議論を行っています。

就職状況については、今年度の学生も良好です。法土会の主催によるキャリアデザインセミナーや基礎ゼミナールでの講義は学生達にとって大変貴重な機会となっています。この場をお借りして感謝申し上げます。今後とも卒業生の皆様からの温かいご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

# 活躍する卒業生紹介

## 株式会社 ユーラス エナジー ホールディングス　石 井 靖 広（1988年卒業）

私は卒業後、ゼネコンに３年ほど勤務した後、三菱重工業株式会社に移り、最初の約10年は鋼構造物の設計業務、工場の管理業務を担当、次の約10年はプラントの建設部門で、主に、液化天然ガスプラントの現地施工管理やプロジェクト全体のマネジメント業務を経験した後、2009年より陸上風力発電設備関連業務、2019年からは２年間風車先進国デンマークの関連会社に派遣され、洋上風力発電設備の建設やプロジェクト計画に関する業務にあたりました。帰国を機に昨年、三菱重工を退職し、現在の会社で国内洋上風力発電所の開発業務を担当しております。

卒業当時より、海外での業務に関心があり、これまでの会社生活の内、約３分の１は海外プロジェクトに携わってきました。米国をはじめ、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、中東等の各地で多くの方々と仕事をし、苦労も沢山ありましたが、プロジェクトが完成し祝杯を挙げる際は、そこまでの苦労を忘れさせるほどの達成感を関係者全員で得る事ができました。

業務を進める際は、国民性の違いによる誤解や、人種や宗教の壁もあり、簡単な調整に時間を要する事も多々有りました。会議開始時間ひとつとってみても、（個人の感想ですが）日本人は開始少し前に集合し、デンマーク人は開始時間に集まり、フランス人は15分程度遅れる事が当たり前といった具合です。（ただし、終了時間については日本人以外厳守します。）

国民性の違いに関しては、Erin Meyer著「THE CULTURE MAP」と言う本に、異文化の人々と仕事をする上で理解すべき点などが良く纏められており、参考になりますので、興味のある方は是非読んでみてください。

業務以外でも、現地の方の自宅に招いて頂き食事をしたり、なかなか日本からは行けない場所を旅行したりと楽しい経験も沢山できますので、特に、若い方々は機会あれば積極的に海外に出てみてください。海外から日本を見ると、面白い気付きが必ずあります。

現在、携わっている洋上風力発電所の開発事業は、日本ではまだ経験の少ない分野であり、前例の無いことも多く、地元の方や行政の方など多くの関係者と調整しながら丁寧に進めて行く必要がある事業です。技術的には土木の分野だけでも、港湾、基礎構造物、施工技術、地域共生、景観工学など幅広い知識を生かせる仕事です。

これまでの経験を活かし、脱炭素社会実現に少しでもお役に立てればと考えております。

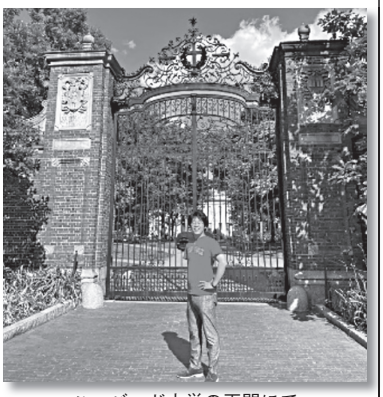
## 経済産業省（電力広域的運営推進機関 出向）　山 中 悠 揮（2011年卒業）

私は2011年に卒業し、経済産業省に総合職（Ｉ種技官）として入省後、東日本大震災からの復興や、石油化学コンビナートの保安規制、経済産業大臣政務官の秘書官、電気事業法の改正などの業務に従事し、直近では米国ハーバード大学ウェザーヘッド国際問題研究所に研究員として派遣されておりました。現在は、電力広域的運営推進機関（電力広域機関）の、総務・企画部門で経験を積んでおります。

電力広域機関は、国の電力政策の下2015年に発足し、電力の広域的な活用に必要な送電網の整備を進めるとともに、全国大で平常時・緊急時の需給調整機能を強化するための取組等を実施しております。

具体的には、遠方のより安い電源や再生可能エネルギーの開発適地からの送電が可能とするべく、送電網の長期の整備計画となる「マスタープラン」を策定し、その投資規模は約６～７兆円とも見込んでいます。また、昨今、需給逼迫が課題となる中、広域的な電力融通指示（例えば東京電力パワーグリッドに他エリアから電力の供給を指示すること）にも対応しております。

ハーバード大には、経済産業省の業務の一環として、１年弱派遣してもらいました。在籍中は、再生可能エネルギーへの投資を効率的に進めるために、主要国の政策を比較し論文にまとめ発表しました。霞ヶ関で仕事をしている時と比べ、比較的、時間に余裕ができたことからアメリカ各地を旅行する機会にも恵まれました。サンフランシスコでは、ゴールデンゲートブリッジが第二次大戦前の1937年に完成していたことに驚愕すると共に、サンフランシスコから住まいのあるボストンへは、大陸横断鉄道で４日かけて帰宅しました。鉄道や高速道路等のインフラの偉大さを身をもって感じると共に、電力の送電線も同様で、いかにコスト効率的に維持管理・導入していくかが課題です。幣機関では、電力分野の高経年化設備更新（アセットマネジメント）ガイドラインなどを策定しておりますが、大学で学んだことを懐かしく思い出しております。



ハーバード大学の正門にて

最後に、アメリカの大学に籍を置き、研究・政策提言機能のみならず、大学が卒業生の知的交流のハブとして機能していることを感じました。今後、法士会の役割が一層大きなものとなると確信しております。

大陸横断鉄道の車窓から

# 活躍する卒業生紹介

MIG, Inc.　土 屋　盛（1983年卒業）

この機会に、国内外でご支援を頂いた先生方や同窓生の皆様に深く感謝します。世界の端っこの国々での仕事についてふり返って紹介します。

私の最初の海外経験は、青年海外協力隊への参加、サモアへの派遣でした。土木研究会を中心とした同窓生や先生方に壮行会を催して頂き、緊張して旅立ちました。２年間、サモア政府水道局に配属されたところ、職場はサモア語と英語のコミュニケーションで、国際協力入門のための経験ができました。現地で米国平和部隊員だった妻に出会えたのも、わたしの人生にとって大きな幸運でした。

２度目の海外滞在は、ポリネシアの小国、クック諸島に国連ボランティアとして90年から赴任した３年間です。大型サイクロンで被害を受けたインフラの再建がその任務でした。復旧事業が一段落すると、外国からの派遣技術者が去り、国内にただ1人の土木技術者として残り、責任を感じましたが良い経験です。

その後、同じ太平洋のヴァヌアツの国連機関であるESCAPの分室で、多国籍の専門家チームに参加しました。92年に、ブラジルのリオデジャネイロで開催された「地球サミット」で提唱された持続可能な開発という理念のもと、開発援助アプローチが見直された時期でした。数々の離島に出かけて、インフラ整備に4年間従事しました。ある離島の水源調査では、ペニスサックに弓矢だけを身に着けた酋長に、山中を案内され、「何もしない」ことが、「持続可能な選択肢」ではないかとも、考えさせられました。

その後、太平洋地域での仕事に区切りをつけて98年に日本に帰国して、法政大学土木の同窓生が在籍する（株）共生に加えて頂きました。職場に慣れた頃、JICAからアフリカ派遣の打診を受け、会社からの出向で、南部アフリカのエスワティニ王国に地方水道専門家とし赴任しました。この機会にも、先生方や同窓生には、派遣前、派遣中に、多くのご協力やご声援を頂戴しました。当時の派遣先は、安全な水にアクセスできる村落人口はその約50％に限られ、現況調査から将来計画の策定に、同国政府職員や様々な人たちと取り組んだ５年間が、懐かしく思い出されます。

アフリカからの帰国後は、妻の実家のある米国へ本拠を移しました。シアトルのあるワシントン州では、技術者として仕事をするには、プロフェッショナルエンジニア（PE）の資格取得が必須です。資格の審査手続きでは、法政大学の先生方には英文証明書の発行支援や、在学時の履修要綱の捜索にもご協力をいただきました。また、各国の経歴証明を取り寄せる作業に難儀しました。幸いなことに、経歴や試験にも合格して、PE資格を取得することができました。

2007年からは、米国北西端の街シアトルで、都市計画系コンサルタント会社（MIG）に勤務しています。MIGシアトル事務所には、約30名の技術者が在籍しており、その約半数がCivil Engineer、のこりがLandscape Architectという、ユニークな設計事務所です。また、職員の約半数が女性のプロフェショナルです。当事務所の主要な業務分野は、住宅開発、道路を始めとする多様なモビリティへの対応、水環境に優しい街路や、公園などの計画・設計です。

大学の国際化が進み、世界中がSNSで繋がる現在、気軽に外国へ出られるようになりました。学生の皆さんには、「青年日本の代表者」として海外に雄飛して欲しいですね。

末筆ですが、同窓生の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈りします。

# 社会工学セミナー　開催報告

第27回社会工学セミナーが開催されました。社会工学セミナーは講演会を通して卒業生と大学・学生との情報交換ならびに交流を目的とし、皆様の学生時代の友との再会の場ともなっております。コロナ禍の中、実に３年ぶりに2022年11月14日（月）法政大学市ヶ谷田町校舎（５Fマルチメディア教室）でWEB配信も含め開催されました。

大学からは、2019年より教鞭をとられている今井教授に「研究室の活動を踏まえた講演」、1981年卒 江戸川区副区長の新村義彦さん（現技監）に「江戸川区でのご経験」をご講演いただきました。講演内容を以下に示します。

**【講演題目】**

・建設DX体現への挑戦　～社会空間情報研究室の取り組み紹介～
　法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科　今井龍一　教授

・地方行政と土木技術者　江戸川区副区長（1981年卒）新村義彦　氏

当日はOBOGをはじめ、学生の参加、WEB配信での聴講の方も多数おられ、活発な意見交換が行われるなど、有意義な時間を過ごせました。

理事　北條　幸雄（1982 年卒業）

| | |
|---|---|
| 法政大学　理系同窓会ホームページ | http://133.25.196.100/joomla3605/index.php |
| 法政大学　デザイン工学部<br>都市環境デザイン工学科 同窓会（法士会）ホームページ | https://civil.ws.hosei.ac.jp/wp/shinro_tokuchou/alumni_association |

# キャリアデザインセミナー
## 「第11回卒業生と学生の意見交換会」開催報告

この『卒業生と学生との意見交換会』は、学生自身で進学や就職等の進路検討、及び卒業後のキャリア形成などの一助としてもらうため、学科及び同窓会共催で授業の一環として毎年開催しているものです。

本年度の『卒業生と学生との意見交換会』は、去る2022年10月13日（木）の４限・５限の２コマを使用して二部構成で開催しました。

一部は、社会に出て数年の若い卒業生５名と内定者（修士２年）１名の６名によるパネルディスカッションを行い、若い視点でのアドバイスを貰いました。

二部では、平日にもかかわらず建設業関連25社、建設コンサルタント18社、官公庁関連７団体、その他（鉄道・道路事業者、メーカーなど）12社から総勢100名近い卒業生による個別意見交換を行い、学生が抱えている不安や疑問点などに対して丁寧に対応して頂き、３時間という長時間にもかかわらず最後まで盛況に終わることができました。

参加した学生からは大変有意義であったという声を多数いただきましたので、今後もこのような貴重な機会を学生に提供できるように、次年度以降の開催に向けて考えていきます。

副会長　山田　誉（1991年卒業）

◆パネルディスカッションの様子

# 2022年 法政大学土木工学科卒業40周年
## 記念親睦旅行　開催報告

私たち1982年度（1983年３月）卒業生は、卒業してはや40年の歳月が経ちました。定年退職等を経てそれぞれ第二の人生（職場）を過ごしています。

卒業後は、卒業20年の岡山開催以来、金沢、熊本、山梨と親睦を深めてまいりました。今回は、40周年記念ということで、岐阜開催を計画し、同窓生総勢15名が岐阜に集いました。これまでの人生を振り返り、今をどうのように楽しんでいるか、還暦を過ぎ、第一線から退いたせいか、みな心に余裕もみえ、和気あいあい語り合いました。

日　時：2022年10月28日（金）～29日（土）

場　所：「岐阜城と長良川の川湊・川原町散策（１泊）」

岐阜長良川温泉、川端康成ゆかりの宿・ホテルパークで露天風呂につかりながら、長良川や金華山の景色を楽しみ、岐阜のうまいものに舌鼓を打ち、各地から持ち寄った酒を味わいました。

翌日は、織田信長が改築し天下布武の足掛かりとした岐阜城や、乾漆仏としては日本一の大きさを誇る日本三大仏の一つ「かご大仏」を観光、長良川の河畔のお店・文化屋で昼食をとり、解散しました。

2023年１月２日　土屋俊隆君逝去、ご冥福をお祈りします。

株式会社テイコク　宮川　真澄（1983年卒業）

◆40周年記念ケーキと宮下会長から頂いたお酒

# 編集後記

❖　新型コロナウイルスによる影響を受けての生活も丸３年が経過しました。皆様は、どのような生活をお送りでしょうか？　私は、建設コンサルタント会社で道路・交通に関する業務に従事しており、ここ数年日本三大花火大会である長岡まつり大花火大会における帰宅時の渋滞対策を検討する仕事に携わっております。2020年・2021年と２年連続で中止となりましたが、今年度は３年ぶりの開催となり、会場の近くで観覧することができ、視覚だけでなく音や振動、煙の匂いなど、全身で花火の魅力を味わうことができました。

長岡花火は、第二次世界大戦の長岡空襲の慰霊・復興、世界平和への祈りの思いが込められています。「復興祈願花火フェニックス」は2004年中越大震災からの復興祈願として2005年から打ち上げられ、世界中の人々の復興と支援に対する感謝のシンボルとして毎年打ち上げられてきました。今年はさらにコロナ禍からの復興、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻の終息等の願いが込められていたそうです。

理事　加藤　哲（2010年院修了）